

地区名：五箇地区

実施主体：五箇地区むらづくり推進協議会

## 1 基本データ

- 地区人口 48人（H31.4.1現在）
- 世帯数 26世帯
- 行政区数 4行政区
- 面積 約146平方キロメートル
- 地区の沿革

五箇地区は、上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落（行政区）で構成され、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連峰、岐阜県に接し、面積は146km<sup>2</sup>と広大な林野を占める中山間地域である。



## 2 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるとともに、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業（現在は1軒が営業）が盛んに行われ、一年を通じて賑わいの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が廃止され、地域の活力は衰退していった。

現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心

に、東勝原・上打波・下打波の4集落に26世帯48名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されている。



このような中、地区内では、むらづくり推また、本協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって30年ほど前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集めたりし、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいる。



## 3 事業の内容

五箇地区では、「越前おおの地域づくり交付金事業」や「結の故郷づくり交付金事業」を活用し、西勝原地区の共有地で花桃並木をは

じめとする花の季節の花を楽しめる場の整備を行ってきた。

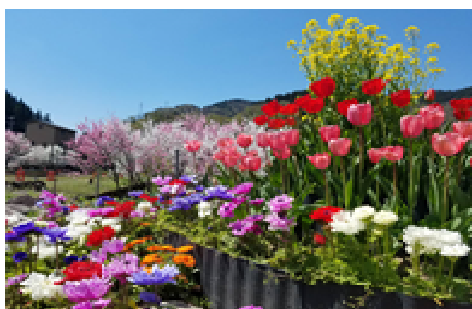
平成 28 年度には花桃のイベントとして「五箇のお花見会」を開催し、来訪者との交流を行い、地域を活性化してきた。

しかしながら、西勝原の花桃として知名度が向上するにつれ、花桃の開花から見頃の時期には県外からも多くの観光客が訪れ、駐車場不足から、周辺の県道への路上駐車による交通渋滞の発生など、住民の生活に支障が生じた。

このため、平成 30 年度からは、本事業を活用し、臨時駐車場を準備し、週末には警備員を配置し、シャトルバスを運行するなど、交通対策に重点を置く活動に切り替えた。



賑わう会場内



早春の花桃園地



イベント日以外でも渋滞する県道 (H29)



交通誘導員の配置 (H30)



【花桃園地整備 (H27)】  
休憩施設 (東屋) 完成



駐車場からシャトルバスへ乗車 (H30)

平成 31 年度（令和元年度）は、昨年度に引き続き、花桃シーズンの西勝原区の交通渋滞の緩和のため、臨時駐車場を設け誘導するとともに、居住地周辺の道路へ駐車をしないように促す看板等を設置した。

また、土、日曜日には臨時駐車場までのシャトルバスを運行し、交通誘導のための警備員も配置した。

同時に地区住民による拠点整備、保全もなされ、公園内の様々な花の植栽やオブジェの設置、草取り清掃、園地トイレの清掃も行われ、来訪者をもてなすことができた。また、地区住民による屋台の出店や大正琴の演奏会も催され、地域住民も参加し、楽しみながら地区内外の交流を図ることができた。

また、花いっぱい運動も展開し、地域の住民のコミュニティの醸成、環境美化も図られた。



設置した看板等



様々な花の植栽



臨時駐車場の様子



園内に作られた手作りオブジェ



地区民の屋台の出店



大正琴の演奏会



花いっぱい運動

#### 4 事業の成果

昨年に引き続き、交通渋滞対策を講じたことで、地区内の道路は、一部、路上駐車もみられたが、渋滞することなく比較的スムーズに通行ができた。

また、イベントは休止しているが、地区住民の花見客をお迎えする気持ちは変わらず、花桃公園の維持管理や屋台の出店もみられ、渋滞という地域課題の克服と、地域資源を生かした故郷の拠点保全を図ることができた。

また、区民が集い花を植え、自分たちも大正琴の演奏会により楽しむなど、地区内の交流を深め、地域の活性化に資することとなった。

#### 5 今後の展望

花桃公園の整備が完了し、それを活用したイベントの開催は、地区住民をはじめ、五箇に縁のある方々が、「五箇の良さ」を再認識する良い機会となり、また、多くの来訪者を受け入れることで、地区に賑わいを創造することができた。

半面、地区内の道路が渋滞し、地区民の生活にも支障をきたす事態も生じることとなった。

人口減少や高齢化の進行による地域の減退を少しでも食い止めるため、今後も地区の“宝”である、花桃を核とした取組みを継続し、住民と来訪者が交流する機会や場を残していくことが、“ふるさと五箇”を後世に引き継ぐ原動力になっていくであろう。

今後とも喫緊の課題に目を背けず、豊かな自然を生かした交流拠点の保持と地区住民のおだやかな生活をどのように両立し地域づくりを進めていくかが求められている。